

福祉教育・福祉啓発レポート

実施日時	平成27年12月9日(水)	依頼 件数	対応 件数	日数	コマ 数	調整 数	参加 者数
	9:40 ~ 11:30	1	1	1	2	45	428
テーマ	人権を尊重し、偏見や差別を許さない考え方、心情を高める。また、身体に障がいのある方の話を聞くことを通して、認め合う心、諦めない心を育てる。						
団体名	峯小学校						
対象	全校(低学年/高学年)						
講師	デフリンピック自転車競技選手 早瀬久美さん デフリンピック陸上競技選手 高田裕土さん(400M、400Mハードル) パラリンピック陸上競技選手 高田千明さん(走り幅跳び、短距離) ※早瀬さん、高田裕土さんは聴覚障がい、高田千明さんは視覚障がいのある方です						
実施場所	体育館						

内容

デフリンピックやパラリンピックで活躍されている選手を講師に、スポーツを始めたきっかけや、日常生活で楽しいことや大変なことってなあに? というお話を伺いました。3人の講師の軽快なトークで始まります。



早瀬さんは、とにかく世界大会、というものに出たくて、小さいころから大好きだった自転車で挑戦してやろう! と思い立ちます。片手で持てるほど軽い自転車! 体育館を自由に走り回りながら座っている児童とタッチを交わします。耳が聞こえないことは、自転車競技では何の不便もありません。

高田裕土さんは、中学生まで野球をしていましたが、高校時代に肩を痛めてしまいます。その後、陸上を始めたものの、最初はタイムが遅かったそうです。音楽を聴くことはできないけれども、聞こえないことは先生や家族、周りの人が手助けをしてくれる、自分はたくさんのひとにたくさんの「ありがとう」が言えることが、とても嬉しい、とお話されました。



高田千明さんは、走るのが速く学年で一番だったそうです。中学時代には目が見えにくくなり、穴に落ちたり壁にぶつかったり一人で走ることが難しくなってきました。ですが、先生から「伴走者」という存在を教えてもらい、今は陸上競技で活躍されています。一人で歩くのは難しいけれども、困った顔をしていると誰かが話しかけてくれたりして、いろいろな人と知り

合うことができます。そのような時は、目が見えなくてよかったなあと思います、とお話しされました。

デフリンピックってなあに？

ところでデフリンピックってなあに？

パラリンピックは聞いたことがあるかもしれませんね。身体障がい者の国際スポーツ大会です。4年に一度、オリンピックが終わった後に開催されているのでご存知の方が多いかもかもしれません。

では、デフリンピックはどうでしょうか。実は、オリンピック・パラリンピックと同じように4年に一度開催されています。開催時期は、オリンピック・パラリンピックが開催された翌年です。参加資格はいろいろとありますが、「ろう者(Deaf)のオリンピック」ということでデフリンピックという名前がついています。

オリンピックやパラリンピックでは、それぞれの国で使う言語はバラバラですが、なんと、デフリンピックは参加者が国際手話を使うことで、同じ言語を通じた交流が行われています。

次の開催は、2017年！ トルコ共和国のサムスンで開催予定です！